

躍動カフェ（但馬地域） 議事要旨

1 概 要

- (1) 日 時 : 令和 7 年 6 月 13 日 (金) 14 : 30～17 : 10
- (2) 場 所 : コウノトリ但馬空港 多目的ホール (豊岡市岩井字河谷 1598-34)
- (3) 参加者 : 齋藤知事、但馬地域 (豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町) に在住・在勤等しており、地域づくり、地域産業、観光など各方面で活躍している 24 名
- (4) テーマ : 行きたくなる 暮らしたくなる、ワクワク但馬に向けた魅力づくり
- (5) 内 容 : グループ別ワークショップ (A～E グループ)
知事挨拶
意見発表・質疑応答 (A～E グループ)
知事総括コメント

2 意見発表の内容

A 生活環境 (住みたくなる地域づくり)

発表者 : 松岡 千都 (進行役)

現状と課題 :

- 但馬地域では出産可能な医療機関が限られており、隣接する市や鳥取県まで行かざるを得ない場合もある。
- 但馬地域での生活は自家用車の利用が前提となっており、子供の習い事などには親の送迎が不可欠。このことは女性の働き方にも影響すると考えられ、公共交通機関が充実すれば子育てしやすい環境につながる。
- 外国人住民向けの生活相談窓口が設置されていない市町もあり、外国人支援体制の強化が必要。
- 20 代・30 代のプレーヤー (地域活動の担い手) が少なく、また、誰がどこでどのような活動をしているのかが把握しづらい。

課題解決に向けて :

- 子育て世代や働き盛りの世代にとって、長時間の会議や頻繁な開催は負担。会議の効率化が進めば、参加しやすくなり、プレーヤーが増える可能性がある。
- プレーヤーになるためには活動場所が必要となる。地域で活動しようとする方々が空き家を活用しやすくなるような支援策があればよい。
- 養父市内の地域活動を集約した「つながる DAY YABU」や、豊岡市内の子育て情報を集約した「Toyooka iD0」のような情報サイトを但馬全域に拡大することで、プレーヤーを見つけやすくなり、プレーヤー間の連携も促進されるのではないかな。
- 但馬地域において、挑戦や活躍の機会を得られる環境を整えれば、住み続けたくなる大きな要因となる。

質疑：

- 公民館など、人が集まる場の利活用の可能性に関する意見は出たか。

応答：

- 公民館の利用には、居住要件があったり一定の利用料金が必要だったりするが、地域活動をする人がより使いやすくなるような仕組みがあればよいのではないかという意見があった。

B 就労環境（働きたくなる職場づくり）

発表者：稲葉 亜由実（進行役）

現状と課題：

- 但馬地域の将来性の不透明感から、勤め先の企業の将来や給与に不安を感じる人もいると考えられる。
- 人事評価制度やキャリアプランを但馬の一企業が作るのは非常に難しく、都市部から講師を招いて制度設計等の支援を受けることも必要だが、都市部の制度が但馬地域の企業には馴染まないこともある。
- 地元企業の認知度が低く、Uターン希望者や新卒者の応募が少ない。大学生が企業を選ぶ際に、但馬地域の企業が選択肢に入らない可能性がある。

課題解決に向けて：

- 人事評価制度やキャリアプランを作るために、経営者向けの勉強会や、地元の先駆企業の取組を共有できる場などがあれば良い。
- 人と人とのつながりや仲の良さは但馬地域ならではの特性であり、キャリアマップの作成にもその特性を活かすことができるのではないか。
- 小学校から高校まで、生徒が継続的に地元企業について学ぶ機会があれば、進路選択の際に地元企業を思い浮かべてもらえるのではないか。
- 但馬地域の産業や企業の魅力を子供たちに体験してもらう場として、西宮の「キッザニア甲子園」を参考に、但馬版の職業体験イベントを開催してはどうか。

感想：

- 「但馬版キッザニア」はすごく良いアイデアだと思う。子供だけでなく、ぜひ移住者に対しても但馬で働く魅力が伝われば良い。

C 産業（買いたくなる地域産品づくり）

発表者：足立 哲宏（進行役）

現状と課題：

- 但馬地域の産品は魅力がある一方、知名度が低く、地元住民にも十分に認知されていない。
- 単に産品が売れることが目的ではなく、但馬地域に実際に訪れ、産品を知り、ファン（リピーター）になってもらうことが重要。若者が但馬地域を訪れることで新しい視点をもたらされ、商品開発などの新たな展開につながる可能性もある。

課題解決に向けて：

- 多くの企業が人材不足に直面している中、個人での発信よりも、チームとしてうまく連携しながらそれぞれの産品や会社の魅力を発信することが必要。
- 但馬地域の魅力を知ってもらうために、自然学校のような体験学習や、企業の福利厚生の一環として但馬を訪れる機会を創出することが有効と考える。体験拠点を設け、但馬地域ならではの体験を提供することによって、最終的に産品の購入につながる可能性がある。
- 躍動カフェの限られた時間内では十分に議論を深めることができなかった。せっかくの機会なので、今回得たものを次につなげていきたい。継続的にこのような場を設け、アイデアを具現化できるとよい。

質疑：

- 担い手の確保に関する意見は出たか。

応答：

- まずは自分たちの仕事に誇りを持ち、その魅力を地元の子供たちや全国に向けて発信していくことが重要。こうした取組によって、将来的に地元に戻ってくる若者が増える可能性がある。また、田舎暮らしに関心がある人々に対しても、働く場所があることを発信することで、担い手不足の解消につながると考える。

D ツーリズム（訪れたくなる但馬づくり）

発表者：木村 麻紀（進行役）

現状と課題：

- 但馬地域は「弁当忘れても傘忘れるな」と言われるほど天候が変わりやすい土地柄であり、雨天時でも観光客が楽しめるよう、観光コンテンツ間の連携や磨き上げにより付加価値をつける必要がある。
- 各観光地へのアクセスが不便で分かりにくい。但馬空港は存在するものの、更なる活用に向けたPRが必要。また、観光客に対して二次交通に関する情報提供が不十分。
- 各市町がそれぞれの魅力を発信しているものの、但馬地域全体としての連携が不足している。

課題解決に向けて：

- 例えば、雨天時でも観光客が楽しめるよう、観光地同士が連携し、その時々に応じた観光地に案内する仕組みを構築するほか、ガイドの育成を強化することで、満足度の高い体験を提供する。
- ライドシェアを導入できれば、観光客の送迎に要する時間や手間を軽減でき、観光客の受入れ体制にも余裕が生まれる。観光地間を結ぶ具体的なアクセス方法の発信や、二次交通を含めたコンテンツの充実を図ることも重要。
- 但馬地域全体で連携し、広域的な観光コンテンツを構築する。そこから新たにモデルコースやツアーを展開することで、周遊型観光の促進と但馬地域全体の魅力向上につながる。

質疑：

- 発信方法やツールに関する具体的な意見は出たか。

応答：

- SNS やホームページでの発信はもちろんだが、そうした呼び込みだけではなかなか訪れてもらえない。県外や他国への営業も必要。

E 地域資源（伝えるオンリー但馬の魅力）

発表者：仲山 啓一郎（進行役）

現状と課題：

- 但馬地域を象徴するコウノトリとの共生は、当たり前風景になってきているものの、これを風化させないように若者世代にも伝えていく必要がある。
- 但馬牛の堆肥の処理が困難になっており、牛を増やせなくなっていることはなかなか知られていない問題。
- 各業種のプレーヤーの連携が不足している。農業・畜産業・観光・交通・教育などの各業種において、それぞれが努力して解決策を考えているが、横のつながりがない。お互いの課題を知れば解決できることがあるかもしれない。

課題解決に向けて：

- 但馬牛の堆肥をブランド化し、その価値を地域全体に循環させる仕組みを構築する。堆肥の活用は、耕作放棄地の再生や牧草の質向上につながり、農業の活性化を促す。さらに、農地から海への栄養循環により漁業も潤い、地域全体の産業が連動して発展する。この但馬循環型のストーリーは SDGs にも合致し、海外向け観光施策としても展開が可能。
- 各業種のプレーヤーをつなぐ、県全体を横断的に調整するコーディネーターの存在が求められる。兵庫県は豊富な地域資源を有し、日本の縮図とも言われる。その特性を踏まえ、県内の各地域がそれぞれの立場や役割を考えることが重要。
- 兵庫県が存続していくために、県が全体方針となる全県的なグランドデザインやガイドラインを示すことで、住民一人ひとりの意識向上につながる。

質疑：

- 芸術文化観光専門職大学と連携した取組や魅力発信に関する意見は出たか。

応答：

- そこまでの議論には至らなかったが、専門職大学の学生は発信力もあるし、地域でも活躍している。学生との接点を必要としている人は多いはずなので、学生と住民をつなぐような取組が必要だと感じる。

3 知事総括コメント

- 限られた時間の中、それぞれのテーマについて熱心に意見交換を行っていただき、素晴らしい発表を聴かせていただいた。
- 発表では、「但馬版キッザニア」など気になるキーワードもあったので、この後の交流会でも深掘りをしながら聴かせていただき、今後の施策形成の参考にさせていただきたい。